

2022 年度 外部評価委員会

(大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の各任に係る事業に関する会議)

2023 年 4 月 4 日 (火)

13 時半開催

北海道社会事業協会帯広看護専門学校

議題 1. 令和 4 年度学校運営目標と運営計画に関する報告

資料 1. 2022 年度 北海道社会事業協会 帯広看護専門学校 事業計画 評価

(参考資料 1. 国家試験結果 参考資料 2. 帯広看護専門学校 受験者推移)

資料 2. 今後の課題

資料 3. 令和 4 年度交流会アンケート

議題 2. 1 の報告に関する議論と今後の課題に向けた議論

1) 受験者・入学者確保について

2) 卒業生の就職後定着に向けた交流会についての評価

出席者

構成員：北海道社会事業協会 本部 看護局長 的場由紀子 様

北海道社会事業協会 帯広病院 看護部長 浜名真由美 様

北海道社会事業協会 帯広看護専門学校 教務部長 加藤由美 (司会・書記)

議事録

当校会議室で実施した。

教務部長から、学校運営事業計画評価を報告。報告後、議題 2 について意見交換

【 両委員からの質問・意見 】

委員意見：受験者数・入学者数をどう確保するかは大きな課題である。小樽や富良野の地域指定校については、富良野には富良野看護学校があり、また旭川にも看護学校は多い。小樽は札幌が近く、元々の高校生数を考えても厳しい状況である。十勝管外の高校の地域指定校からどれだけくるかは現在厳しい状況であるということは理解できる。

学校回答：地域における看護師の確保と定着を考えると指定校推薦制度を使用できることを PR していく活動はまだ続けていきたいと考えている。オープンキャンパスだけでなく、学校見学を希望する受験生を随時受け付けるなど検討していきたいと考えている。

委員意見：学生の教育の方向性は国家試験合格率をみても現状良いと思うが、受験者数の確保＝入学者の確保につなげていくことが今後大事であると思う。社会人枠を考える必要もあるのではないか。需要はあるはずである。

学校回答：社会人入試については、すぐに検討ができる。早速実施できるようにしていきます。

学校意見：病院と在学生の交流会は続けていき、先輩とのつながりを持たせ働くことに対する不安の軽減に努めたい。できれば年に1回とかではなく2回や、3年生だけでなく、1・2年生なども巻き込んで開催できないか。

委員意見：少しでも学生負担を少なくして病院見学を実施していくといいのでは。1年生はまだ現場のイメージができていない。病院職員との交流会は実習を実施している2・3年生の方が良いのではないか。臨地実習を重ねていくと看護について考えることも多くなり、見えること、聞くことも幅が広がってきて、交流会を実施しても先輩に質問ができる。交流会の意義・効果を考えると実習が始まって感じたこと、看護について考える機会が増えている学年を対象としていいのではないか。

1年生については病院見学を試みる。まずは病院の雰囲気を知ることから始めるといいのでは。また必要であればZOOMでのやり取りもいいのではないか。病院先の状況もあるが3か月に1回などZOOMで先輩との交流をするなど考えていってもいいのかもしれない。

学校意見：3年生と病院職員1年目看護師との交流会については成果があった。就職先の先輩の話聞くことで不安が軽減したという回答が多くなった。また先輩と話したことで、相談してもいいという気持ちにもなったという安心感にもつながった。交流会は継続をしていきたいと考えている。

委員意見：受験生確保について。今後学校見学は随時としてもいいのではないか。長期休暇中だけでなく平日対応もしたほうがいいのでは。授業・演習を公開していく機会を作る、年間の予定を示して見に来てくださいとしてはどうか。地域貢献にもなるので一般人も含めて実施すると、子どもの進学を考える保護者なども来るかもしれない。

学校回答：職業を選択するうえで、高校生からではなく中学生から必要になってくる。一般公開の機会をつくることで、看護職に興味のある人やその家族が来校される可能性がある。社会人入試を考えるのであればより効果的になってくるので検討していきます。

以上